



叶内 昌樹 議員

中学校の現状の課題について

具体的な対応を検討



換気の基準を決める二酸化炭素 (CO2)測定器

質問 コロナ禍において学校生活が一変し教職員や生徒は新しい学校生活を余儀なくされていますが、近年では生徒数の減少により1学年1クラスで大変な密になっているものと感じられる中、学校側から「コロナ禍」対応策の必要事項をどのようにに聞いて対応しているのか伺います。さらに、中学校のグラウンドに関しては外部道路側の簡易フェンスが低く影響があると共に夜間照明は全体

町長 今年度の中学校の普通学級では1年生と2年生が40人1学級で、国が定める学級編成の基準における最大人数であり、3密を避けることは難し

的にグラウンドを照らすように思えないのだが、照明の位置等も含めて、中学校の移転や改修には相当な時間がかかるのであれば、若あゆ温泉多目的グラウンド照明の活用も考えて早急な対応が必要ではないのか。

く、課題と考えています。コロナ禍において、使用した教室を毎日教職員が手分けして消毒作業を行い感染防止に努めてきましたが、学校の負担とのことで、9月からその作業を担うスクールサポートスタッフが小中学校にそれぞれ1名県費で配置して頂いています。

教育長 冬場の換気についても教室の中の空気の流れを数値的に判断出来るようにCO2測定器を購入し基準のデータに基づいた換気環境を考慮した授業を行いたいと計画しております。

町長 中学校のグラウンドの設備については東側の簡易ネットが低く授業・部活動・クラブ活動中にボールがネットを越えてしまう場面が度々あるため、次年度に向けた具体的な対応を検討しています。夜間照明については、正規の設置基準を満

たず照明設備の整備が困難な中、猿羽根山スキー場の照明の再活用により、保護者の要望に応えたものであり、照明器具については角度調整による対応が可能ですのでご相談ください。なお、今後の部活動は地域スポーツクラブが主になる事になれ

ば、国の補助制度で学校の施設関係も照明灯を設置しながら運営していく事も考えられます。若あゆ温泉多目的グラウンドの照明については、グラウンド自体の活用方法と合わせて検討を進めてまいります。



活動範囲が制限される照明状況（平成19年に移設された照明）



見守り隊の交通指導で安全に登校

質問 11月初旬の夕方、傘を差して下校する一人の生徒を見かけました。服装も黒っぽく、防犯灯もなく暗く、対向車のライトで見落とす可能性もあり大変危険だと感じました。徒歩で下校する児童生徒への声かけや指導はされているのか。スク

ールバスから下車し徒歩で帰宅するまでの危険箇所等の調査及び把握はされているのか。
夜光反射材的なものは着用しているのか。不審者等からの回避方法の指導、訓練はしているのか。町長に伺います。

町長 通学時の安全対策を推進していくことは大変重要なことであると認識しており、小中学校においては、登下校時の交通安全指導を毎年計画的に行っています。下校指導は、小学校では新入生に対して4月に教職員と一緒に下校する指導を実施しているほか、時期に応じて年3回の指導を行っています。徒歩通学の児童生徒は約3割程度で、

小学校では、バスの乗降車場所までの通学路について、校外生活委員の協力を得ながら安全確認をしています。中学校では、毎日通る道を担任が確認した上で、通学路として認めることとしています。反射材については、中学校の通学カバンには標準装着されていますが、小学校のランドセルには装備されていない場合が多いため、今回児童生徒全員にシール式の反射材を配布し小中学校で装着の指導をしました。不審者対策の指導では特に小学校低学年に対して、最上教育事務所の青少年安全指導担当者から回避方法について重点的に指導をいただいています。小中学生以外の町民、

特に高齢歩行者に対しては夜光反射材等の活用啓発を含め、町全体として交通事故防止対策を推進していきます。

質問 夜光反射材の形状に制約がなければ縄文の女神をモチーフにした反射材を作成し、多くの町民に着用していただき、

教育長 縄文の女神のPRについては大変有効と考えるが、関係機関の許可等や、予算的なことも考慮した上で、検討させていただきます。



カバンに装備されている夜光反射材シール



伊藤 欽一 議員

下校時の交通安全、防犯対策について

夜光反射材等の活用推進